

# 「令和4年度九州地域農福連携推進セミナー」の開催結果の概要



【濱田 健司氏】

【基調講演の様子】

1. 開催日時：令和5年2月21日（火） 13：30～16：40

2. 会場：熊本地方合同庁舎A棟 1F 大会議室

3. 出席者：35名（参加申込み51名）

4. 基調講演の概要

○ 講師：東海大学文理融合学部 教授 濱田健司氏

○ 講演テーマ「農福連携における中間支援組織の役割」

（1）農福連携における中間支援組織とは

（2）農福連携を広め、発展させるための課題

（3）課題から見てくる中間支援組織への期待

（4）中間支援組織を運営するための主な課題

（5）今後の中間支援組織の展開

5. パネルディスカッションの概要

（1）テーマ「農と福祉のマッチングに関する支援組織の役割」

（2）登壇者

コーディネーター：濱田健司氏

パネリスト：長崎県島原振興局島原地域農業普及課 井手拓也氏、熊本県健康福祉部障がい者支援課 米澤祐介氏、  
鹿児島県鹿屋市農林商工部農政課 川崎洋志氏（オンライン参加）、大隅半島ノウフクコンソーシアム 天野雄一郎氏

（3）パネリストの主な発言

① 農と福祉の連携が広がらないのは、農と福祉それぞれの側で情報が分断されているからで、それを繋ぐことが支援組織の役割。

② 関連する団体間で、農福連携の理念を共有し、農側と福祉側双方へ農作業受委託のマッチングに向けた情報提供を実施。

③ 農福連携を広げるための情報発信は、SNSも有効。また、お試し農福などを通じた成功体験の積み上げは持続的な拡大に繋がる。

④ 農福連携に取り組む中で生じた各事業者の課題は単体で向き合っても解決できないが、ネットワーク（組織）を構築できれば、解決の糸口が見える。これも組織化のメリット。

⑤ 支援組織の構成については、農と福祉の関係者だけではなく、多様な事業者などが参画することが有効で、行政も入っていることが必要。

⑥ 農と福祉の連携が広がらない原因の1つには、マンパワーの不足がある。行政における担当人材については、オールマイティの人材よりスペシャリストが必要。



【パネルディスカッションの様子】